

ソデイカ情報

2006年8月発行

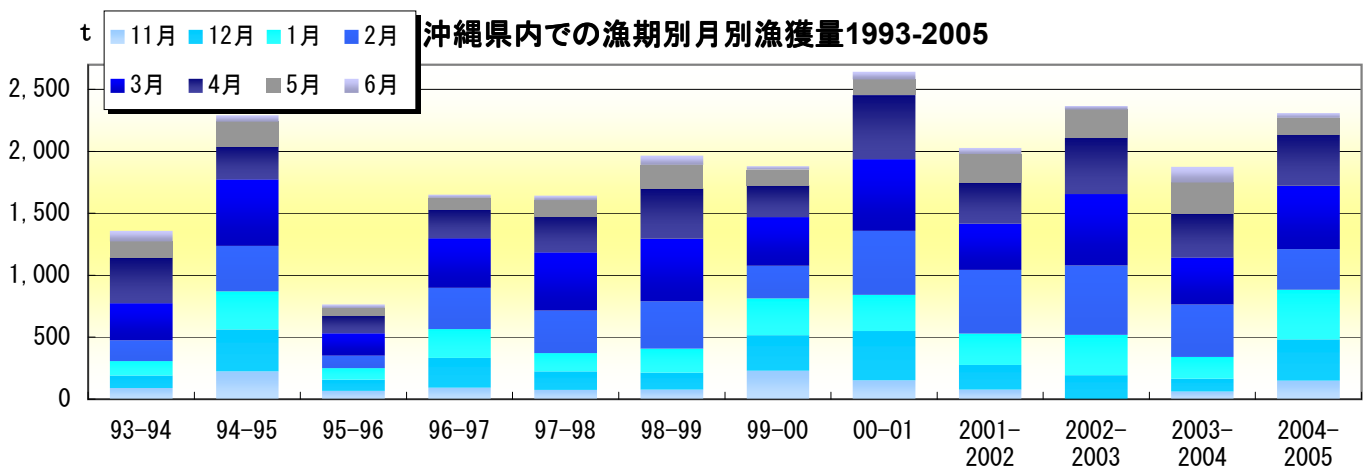
第12号

【沖縄県内のソデイカ漁獲量の推移とその傾向について】

下の図は、1993年から2005年までの沖縄県全体のソデイカ漁獲量です。漁期は、11月から翌年の6月を表しています。

漁獲量は、水産試験場が毎月各漁協から提供していただいている市場情報を基に集計していますが、最近では、市場外流通（セリに掛けられないもの）が多くなってきたため、漁協別の聞き取り調査を中心にして集計しています。

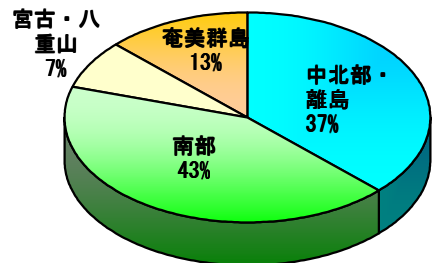
豊漁であった94-95漁期の翌年95-96漁期は漁獲量が急減しましたが、その後は比較的安定して推移していました。00-01漁期は盛漁期の3月とその前後月の漁獲量が非常に好調で、漁期全体としても2,617tの漁獲があり、過去最多となりました。2004-2005年漁期の漁獲量は、漁獲量が順調に推移してきた96-97年漁期以降の8漁期平均漁獲量(2,089t)に比べると、平均を221t（10.6%）上回る漁獲でした。



【地域別漁獲量】

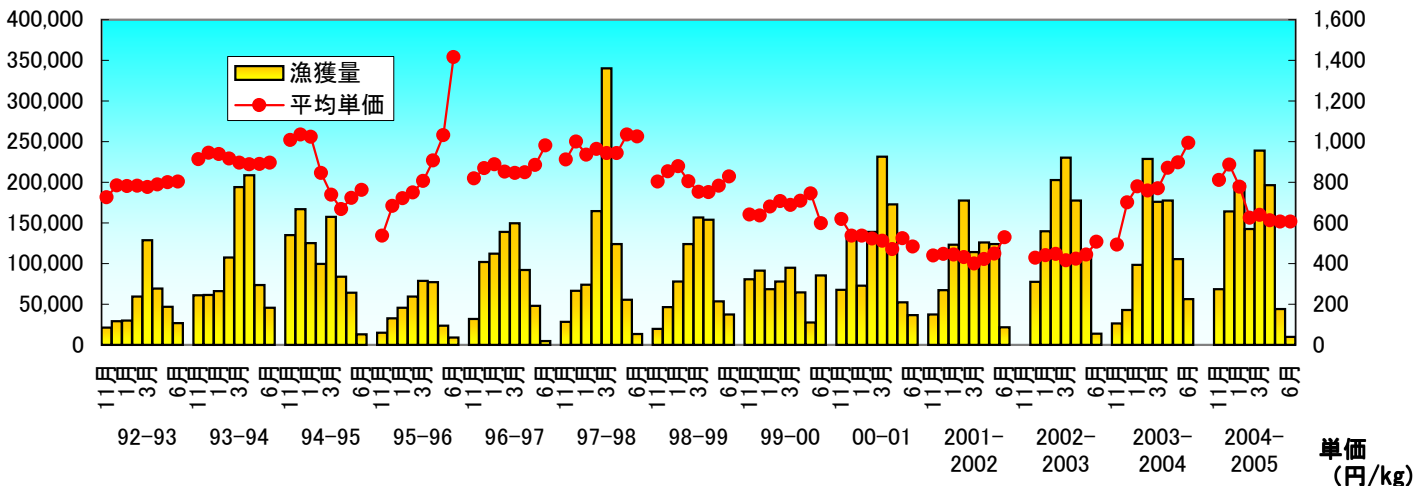
右の図は、沖縄県内と奄美群島の漁獲比率について示したものです。

2004-2005漁期は、奄美では、03-04漁期の315tを8.3%上回る341tでした。沖縄・奄美海域の2003-2004漁期の漁獲量は、2,653tで、03-04漁期の2,191tに比べて21.1%の増加となりました。



漁獲量 (kg)

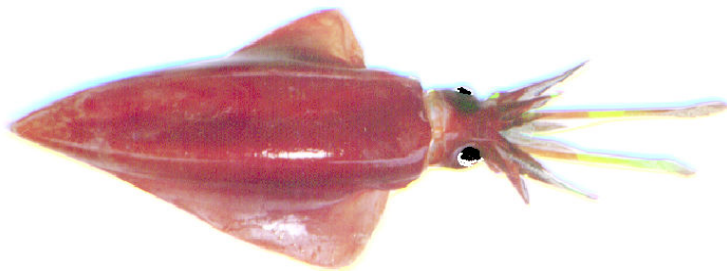
南部3漁協における月別漁獲量と平均単価の推移



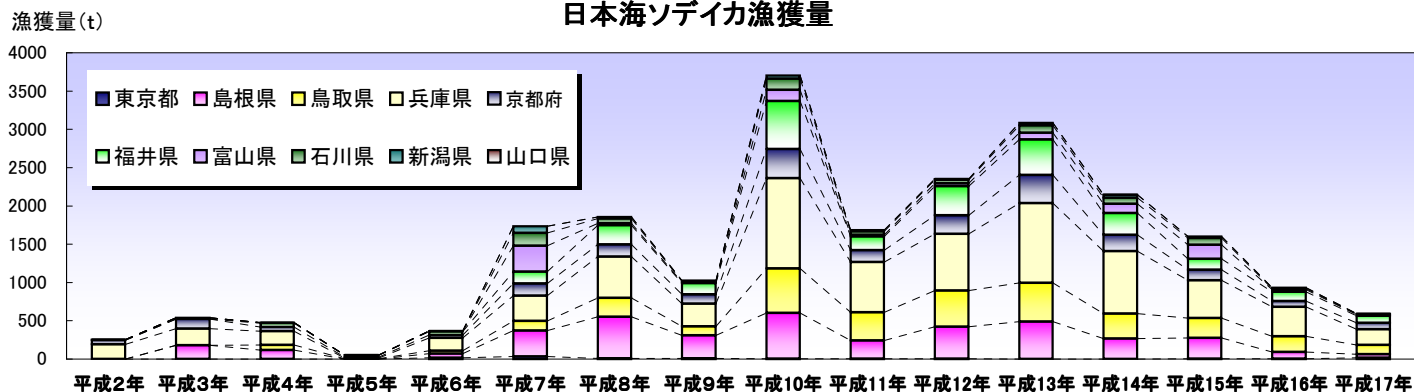
*南部3漁協：本島南部の那覇沿岸・糸満・知念の3漁協

沖縄県水産海洋研究センター

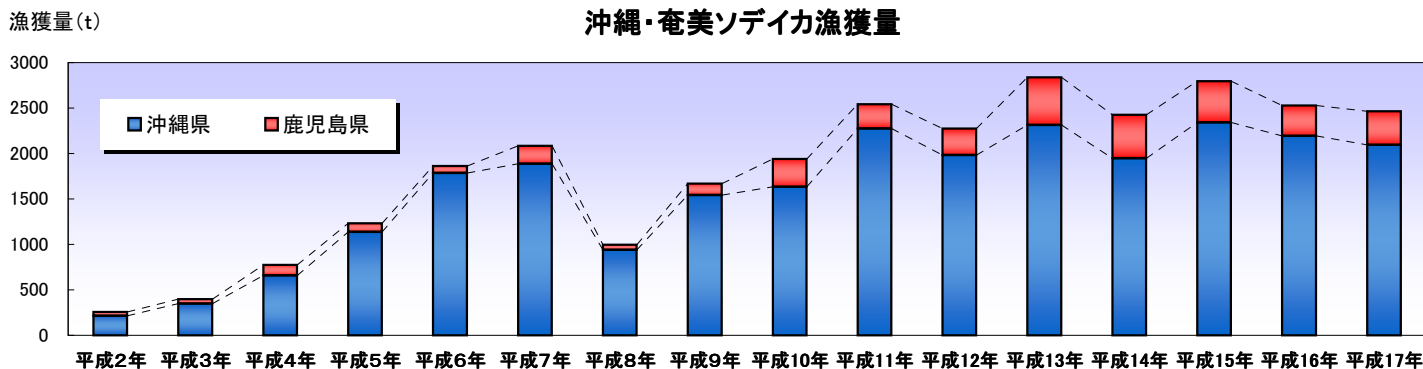
901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
 電話 098-994-3593・3597
 ファクシミリ 098-995-8703
 担当者 松尾和彦（海洋資源・養殖班）
 E-mail matsukoz@pref.okinawa.lg.jp
 URL
<http://www.pref.okinawa.jp/fish/>



日本海ソデイカ漁獲量



沖縄・奄美ソデイカ漁獲量



*鹿児島・山口・島根・鳥取・兵庫・京都・福井・富山・石川・新潟・東京の各水産試験場提供のデータをもとに作成。
 *日本海側の漁獲盛期は9月～12月。鹿児島県、沖縄県での漁期は11月～6月。
 *他都府県の集計にあわせるため、上の2つの図では年集計に統一している。

【ソデイカの漁獲量と単価】

左側の図は、南部3漁協（那覇沿岸・糸満・知念）でのソデイカの月別漁獲量と平均単価について示したものです。

漁獲量と価格の関係は、様々な要因が影響するため、単純に漁獲の増減が価格に反映するとは限りません。県外出荷が主体のソデイカの場合、漁獲から消費されるまでの期間が比較的長く、漁獲時期と消費時期にずれがあるため、漁獲量の増減が価格に反映されるまでには、時間差が発生しています。

また、他の競合するイカ類の動向も影響しています。平均単価は98-99年漁期以降、02-03漁期の448円/kgまで下落傾向にありましたが、04-05漁期の平均単価は794円/kgとなっており、近年は上昇傾向にあります。

【全国のソデイカ漁獲状況について】

右上の図は、ソデイカの漁獲がある各都府県の漁獲状況を示したものです。ソデイカの漁獲量が最も多いのは兵庫県で、他に京都府・島根県・鳥取県・福井県でも漁獲されています。奄美・沖縄近海と異なり、生息深度が比較的に浅いため、定置網によって集中的に漁獲されることもあります。漁法としては、釣り（イカ釣り・樽流しなど）でも多く漁獲されています。平成17年の漁獲量は579 tで、平成16年の926 tより34.5%減少しました。過去5年間減少傾向にあり、平成13年度の3,085tの約1/5以下まで漁獲が減っています。